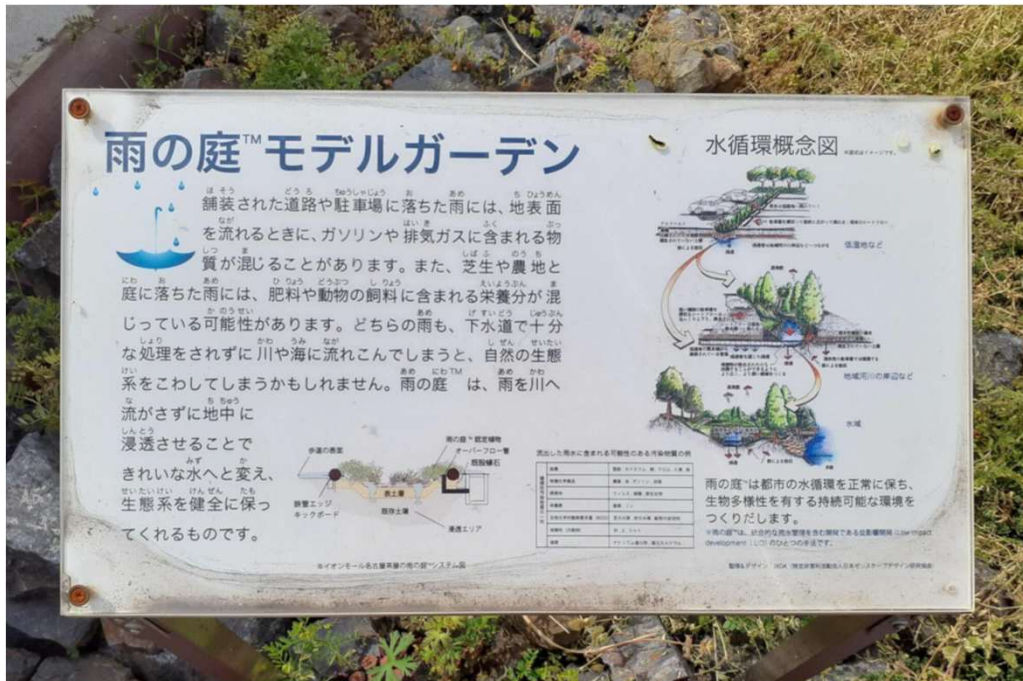


No.	1	名称	イオンモール名古屋茶屋
整備時期	2014年6月	所在地	名古屋市港区西茶屋2丁目11

## 《概要》

敷地内で集めた雨水のろ過や敷地外への流出抑制など雨庭システムの実際的な効果を期待すると同時に、モデルガーデンとして地域の環境教育に活用していただくことを想定して設置されました。

小さなモデルガーデンでも仕組みを知ることにより、グリーンインフラや生物多様性保全など環境問題に思いを馳せるきっかけになり得ることを期待しています。

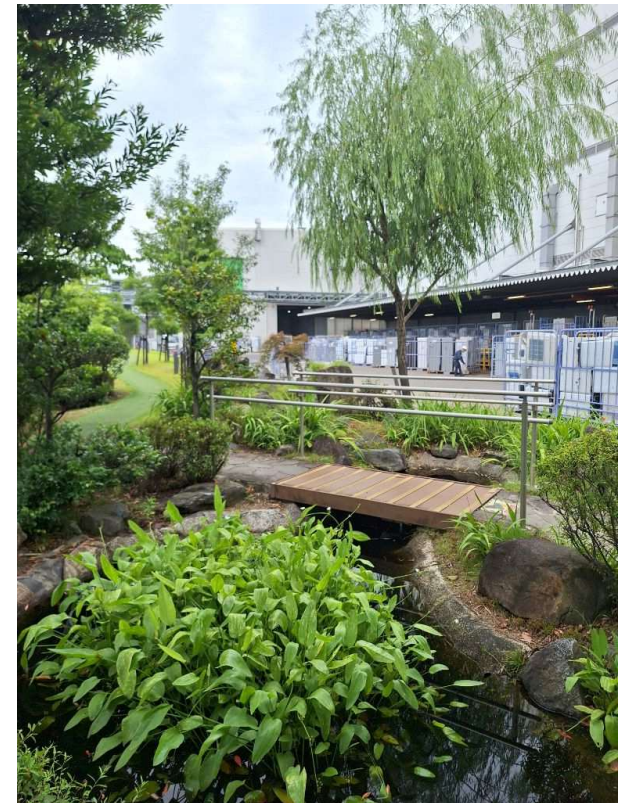


No.	2	名称	グリーンサイクル株式会社 グリーンガーデン
整備時期	2015年2月	所在地	名古屋市港区昭和町13

## 《概要》

ビオトープとして整備した池の水に雨水を利用しています。池の底には透水性のあるシートを設置し、水はゆっくりと地面に浸み込んでいきます。めだかやトンボなどの生き物が生育しています。

また、工場棟の屋根に降った雨を貯め、トイレの洗浄水をはじめ様々な場所で使用するなど、雨水の活用も行っています。



No.	3	名称	愛知県精神医療センター
整備時期	2018年8月	所在地	名古屋市千種区徳川山町4-1-7

## ＜概要＞

駐車場、芝生広場に隣接する水路にて雨水を浸透・集水させる水路を整備しています。水路途中にはビオトープ池もあり、めだかや金魚などが生育しています。

ランドスケープデザインを取り入れ、雨水排水そのものを見せることで、雨後の数日間だけ楽しめる自然の水景が見られます。



No.	4	名称	東海国立大学機構 Common Nexus (ComoNe)
整備時期	2025年3月	所在地	名古屋市千種区不老町

## 《概要》

緩やかな湾曲状の屋根を緑化（写真①）し、降った雨を集水桝にあつめ、その水がクスノキ並木沿いに設置された浸透管（穴が開いた管）を通り、土中に浸透することにより並木や植栽にうるおいを与えます（写真②）。

図書館前広場には雨水貯留浸透施設を設置し、降った雨を一時的に貯め、また土中に浸透もさせています。



写真①



写真②

舗装の下に、  
浸透管を設置して  
います。

[名古屋大学WEBマガジン「広報名大」](#)でも紹介しています。

No.	5	名称	名城公園グリーンインフラ啓発スポットの雨庭（名古屋市環境局）
整備時期	2025年10月	所在地	名古屋市北区名城1丁目（名城公園内）

## 《概要》

雨庭の直上に降った雨と、周囲の植栽に降った雨が流入します。雨庭には碎石や砂利が充填されており、隙間に雨水を貯留する能力やそこから地中に浸透する能力があります。

雨庭の他に生物多様性に配慮した緑化や保水性舗装といったグリーンインフラを取り入れています。



市電の敷石を修景に再利用しています。



[名城公園グリーンインフラスポット（名古屋市公式ウェブサイト）](#)でも紹介しています。

No.	6	名称	瑞穂公園ラグビー場 雨花壇（名古屋市環境局）
整備時期	2025年10月	所在地	名古屋市瑞穂区山下通5丁目4番地（瑞穂公園ラグビー場内）

## 《概要》

ラグビー場エントランスの屋根の水が花壇に流れるように雨どいを設置しています。花壇の土の下には、碎石層をつくり、隙間に雨水を貯留しながら、ゆっくりと地面に浸透させています。このように雨水を利用した花壇を『雨花壇』と呼んでいます。花壇の植栽は生物多様性に配慮した緑化になっています。また、『雨花壇』をご自宅でも整備できるように案内看板も設置しています。

雨どい



No.	7	名称	瑞穂公園南ひろばリニューアル（株式会社 瑞穂LOOP-PFI）
整備時期	2025年10月	所在地	名古屋市瑞穂区豊岡通3丁目

## 《概要》

スポーツをもっと自由に、楽しく、みんなのものにするという「LifeSports-Our Own Park」をコンセプトに瑞穂公園一帯を再整備しています。南ひろばでは、みどりが美しく涼しい公園環境・永続的な緑の空間を実現しています。

芝生の土の下に砕石を敷き詰め、降った雨を一時的に貯めつつ、土中に浸透させています。芝生の水はけを良くするための排水板も土中に設置しています。



公園内には水循環の普及・啓発看板も設置！

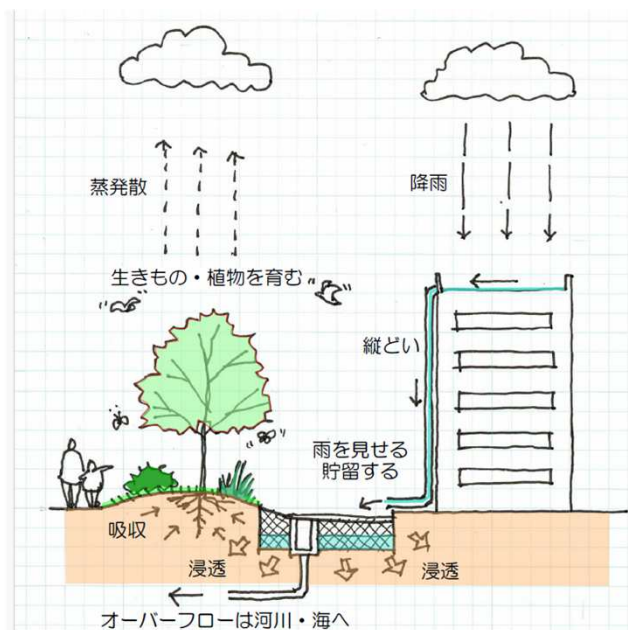
No.	8	名称	神宮東パークハイツ（UR賃貸住宅）における雨庭 （UR都市機構 中部支社）
整備時期	2026年3月	所在地	名古屋市熱田区三本松町21他

## 《概要》

誰でも立ち入ることができる団地内のプレイロット（小さな遊び場）に雨庭を整備しました。

団地の屋根に降った雨が雨樋の中を流れて雨庭へ流れます。そして、その雨水はゆっくり地中にしみ込み、周りのみどり（植物）が水を吸収し、一部は水蒸気となって空気中に戻ります。

神宮東パークハイツは、昭和50年代の建設当時より雨水浸透施設（浸透側溝など）の設置など、水循環を意識した整備が行われていました。緑豊かな神宮東公園などと一体となった屋外環境とともに雨庭を知っていただけると嬉しいです。



No.	9	名称	雨庭試験整備（名古屋市環境局）
整備時期	2026年5月	所在地	名古屋市中区三の丸二丁目

## 《概要》

名古屋市内の道路等での雨庭の社会実装に向け、護国神社付近の植栽帯に雨庭を試験整備しました。道路等での最適な構造を検討するため、雨水の取り込み方法や、貯留浸透層の構造などを7つの区画に分けて整備しています。植栽は生物多様性の保全と景観に配慮しています。

車道に降った雨水を植栽に導き、植栽の土の層をとおして、大きさを揃えた石の層（貯留浸透層）で雨水を一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させます。

